国際シンポジウム「時の作用と美学」

日時・場所： 2012年4月14日（土）国立西洋美術館
15日（日）東京日仏学院

主催：国立西洋美術館・東京日仏学院

企画立案：陳岡めぐみ（国立西洋美術館主任研究員）・ミュリエル・ラディック（サン・テティエンヌ国立高等建築学校講師、建築家）

後援・協力：フランス大使館、鹿島美術財団、人間科学会館（パリ）、西洋美術振興財団、ローラン・ペリエ、ル・ブルターニュ

主旨：2012年3月—5月に国立西洋美術館において「ユベール・ロベール 時間の庭」展が開催される。古代への新たな関心と愛好が高まった18世紀後半を生きたフランスの風景画家、建築画家ユベール・ロベールは、古代遺跡やモニュメント、庭園などを主たるモチーフ源としつつ、絵画空間や庭園デザインにおいて数々の空想的な風景や建築物を描きだした。本シンポジウムは、「廃墟のロベール」とも綽名されるこの画家の芸術を国内ではじめて紹介するこの機会に、広く時代背景と今日的意義を探り、理解を深めることを目的として、国立西洋美術館と東京日仏学院の協力の下に企画された。会場を変えて2日間にわたって開催される本シンポジウムでは、「時」が人の意識や事物にもたらす作用とこれをめぐる美学をめぐって、日仏の研究者、芸術家、建築家を集めて多角的に論じ合う。

時間とは、われわれから生を奪い、形あるものに破壊をもたらすと同時に、再生のサイクルを回し、歴史を作り、伝統という新たな価値を生み出すものである。初日は、忘却と再生の連続である芸術の歴史をひも解き、ルネサンスから20世紀初頭まで、「時の作用」をめぐって、“歴史的”視点から考察する。2日目は、前半は、「時の美学と痕跡」をめぐって、20世紀から現代まで、写真、建築、映像等、さまざまなメディアにまたがる現象を考察する。また、時間をもたらす作用とは、人間と人間が生み出す諸物を取り巻く「自然」がもたらす作用と言い換えることもできる。2日目の後半では、現在、第一線で活躍する日仏の建築家を招き、従来の枠組みをこえた現代の動向を探る、「建築と自然」をめぐる対話の時間を用意する。なお、各日の最後に会場も交えた全体討論の時間を設ける。

プログラム概要

4月14日

第I部：「時の作用」

10時 開会の辞：青柳正規（国立西洋美術館長）

10時5分—11時

基調講演：高階秀爾（大原美術館長）「時間・廃墟・芸術」

セッション1 歴史としての過去

11時—11時40分 小佐野重利（東京大学教授）「絵画と時間、というよりむしろ絵画の中の時間—15, 16世における歴史認識をめぐって—」

11時40分—12時20分 バルテレミ・ジョベール（パリIV大学教授）「19世紀における英仏のネオ・ゴシック—過去への回帰か、あるいは現在の賞揚か？」

～13時30分 昼食

セッション2 時間の模倣

13時30分—14時10分

ギヨーム・フェルー（ルーヴル美術館キュレーター）「《ヘレネをパリに差し出すウェヌス》、ギャヴィン・ハミルトン（1723-98）による鑑定家のための絵画」

14時10分—14時50分

陳岡めぐみ（国立西洋美術館主任研究員）「時間の模倣—「廃墟のロベール」をめぐって」

セッション3 時間とかたち

14時50分—15時30分

三浦篤（東京大学教授）「モダニズムにおける過去と現在—エドゥアール・マネを中心にして」

15時30分—16時10分

阿部成樹（中央大学教授）「変容の地平—アンリ・フォションの思索から—」

16時30分—17時50分

第I部総合討論：司会 高階秀爾

4月15日

第II部：「時の美学と痕跡」

14時-

開会の辞：ジャック・ガルニエ（東京日仏学院院長）

セッション1 「痕跡」

14時05分—14時15分

ミュリエル・ラディック（パリ第8大学講師、建築家）「導入：時間の痕跡」

14時15分 —14時30分

司会：稲賀繁美（国際日本文化センター教授）導入

14時30分—15時00分

北川フラム（アートディレクター）「時間と空間：加藤周一と丸亀周造」

15時00分 —15時30分

宇野邦一（立教大学教授）「時間と身体—ダンスと映画に触発されて」

15時30—16時00分 質疑応答

セッション2 「建築と自然 新たな対話へ」

16時—16時15分

司会：五十嵐太郎（東北大学准教授）「建築と植物」

16時15分—16時45 隈健吾（建築家、東京大学）

16時45分 —17時30分

パトリック・ブラン（植物学者、アーティスト）「植物の壁と再生」

17時30分 —18時半 対談18時00分閉会の辞：

パノス・マントシアラス フランス文化省、建築・都市・景観研究局局长（BRAUP, Ministère de la Culture